

# 三井ゴールデン匠賞

2022年3月23日

## 第4回「三井ゴールデン匠賞」贈賞式開催 石川県・宮本 雅夫氏が〈モストポピュラー賞〉を受賞 ～日本の伝統工芸の持続・発展に真摯に取り組む個人・団体を表彰～

三井グループ24社で構成する「三井広報委員会」は、日本の伝統工芸の持続・発展に真摯に取り組む個人・団体を表彰する第4回「三井ゴールデン匠賞」の贈賞式を、2022年3月18日(金)に大手町三井ホールにて開催しました。

贈賞式では、5組の〈三井ゴールデン匠賞〉、2組の〈審査員特別賞〉、2組の〈奨励賞〉を受賞された匠の方々を表彰。そして、〈三井ゴールデン匠賞〉受賞者の中から、一般投票により選出された〈モストポピュラー賞〉受賞者1組の発表を行いました。〈モストポピュラー賞〉は、一般の方々に伝統工芸を身近に感じていただく事を目的とした賞で、WEBサイトにて、2月9日～3月6日にかけて一般投票を実施。最も得票のあった石川県・宮本 雅夫氏が、〈モストポピュラー賞〉を受賞されました。

また、2019年度に行われた第3回「三井ゴールデン匠賞」では、新型コロナウイルスの影響により、贈賞式が中止になっていましたが、今回の贈賞式に第3回開催の受賞者を招待しました。過去に実施したオンライントークイベントで司会を務めて頂いた、タレント・女優として活躍されるサヘル・ローズさんをお招きし、花束の贈呈が行われました。



第4回「三井ゴールデン匠賞」受賞者



岡山県・烏城紬保存会(代表:須本雅子氏)は贈賞式にはオンラインにて参加

第4回「三井ゴールデン匠賞」  
〈モストポピュラー賞〉受賞  
宮本 雅夫氏 (石川県/九谷焼)

第3回「三井ゴールデン匠賞」受賞者

【第4回「三井ゴールデン匠賞」受賞者および、受賞コメント】

〈三井ゴールデン匠賞〉

■ うじょうつむぎほぞんかい 烏城紬保存会 ※団体として受賞 (岡山県/うじょうつむぎ烏城紬) 代表:すもと まさこ 須本 雅子



三井ゴールデン匠賞をいただき、正直驚きました。もらっても良いのだろうかという思いもありました。織元として烏城紬を継いで、初めは、全部の作業を一人でするのができるのだろうかという不安もありました。でも、全工程を一人ですること、全てのことが分かり、作品に責任をもつことができると考えました。公民館の講座を始めてからは、生徒の皆さんが喜んで熱心に活動してくれたので、私も励みになり、負けれないという思いで頑張ることができました。一人では、今まで続けて来られなかったと思います。伝統工芸を繋いでいくことが難しい時代ですが、烏城紬を知ってくださる方も増え、このような賞を作ってくださいましたことは、励みになると感謝しています。今まで関わってくださった方に感謝しておりますし、今回の受賞が、保存会の皆さんの励みになればと思っています。

■ ささき まさひろ 佐々木 正博 (香川県/しつげい漆芸)



此の度は三井ゴールデン匠賞を戴き身にあまる光栄です。先人の言葉に「古人の跡を求めず古人の求めたる所を求めよ」という言葉がありますが伝統工芸を固定化した技術として捉えるのではなく 先人の新しい物を創造するという志が新しい技術の積重ねになり 伝統工芸という物になっていると思います。これからも香川漆芸独特の蒔醬技法を発展させ 自分の新しい色彩表現を目指したいと思います。かつて南蛮漆が多くヨーロッパに輸出されたことを思えば 三井ゴールデン匠賞が世界に発信出来る場に成ることを期待致します。誠にありがとうございました。

■ まつぎきにんぎょう 株式会社 松崎人形 ※ 団体として受賞 (東京都/えどきめこみにんぎょう江戸木目込人形) 代表:まつぎき みつまさ 松崎 光正



この度は思いもよらず三井ゴールデン匠賞を頂戴いたし誠にありがとうございました。この道に入り47年を過ごしてまいりましたがまだまだ先の長い様な気がいたします。お陰様で毎日楽しく仕事をさせて頂いております。人形は他の工芸と少し違う物なのかなと最近良く思います。若いころは自分の仕事が見えていなかったせいか、仕事の面白さより多忙な毎日に翻弄されておりました。50歳を過ぎた頃から人形の持つ可能性に少しずつ気が付いてきました。人形には機能的な要素がありません、只、飾っていただいて鑑賞する対象だと思えます。そこが肝だと思えます。それゆえに人に寄り添い、励まし、慰め、楽しませる。今一番大切なものが人形にはあると思えます。そんな気持ちでこれからも人形に係る仕事を続けたいと思います。三井ゴールデン匠賞に期待することは、手で物を作り出す喜びと それを続ける事が出来る状況をこれからの時代を担う人が享受出来るようにサポートをお願いしたいと思えます。日本の伝統工芸は世界に類を見ない質の高さと美しさを備えた日本の宝だと感じております。それに携わる人たちの情熱も並外れた物だと感じております。どうか末永くサポートをお願いいたします。

■ まつやま よしなり 松山 好成 (三重県/い が伊賀くみひも)



この度はこの様な素晴らしい賞をいただきありがとうございます。着物姿では着物・帯が主役で帯締めは脇役に、着物・帯を選んでその後帯締めを選びます。この賞をきっかけに帯締めに合う着物・帯を選んでいただける様になれば嬉しです。今後この技術の後継者を育てていきたいと思えます。ありがとうございました。

■ みやもと まさお 宮本 雅夫 (石川県/くたにやき九谷焼)



この度の受賞にあたり、審査員の方々が今回の取り組みにおける私の意図を深く汲み取って下さったこと、また、地道な活動に光を当てて頂いたことに深く感謝しております。血気盛んだった駆け出しの時を経て、特に40代に入って以降は徹底的に産地にこだわったものづくりを行ってきました。外から見栄えの良いモノを持ち込むのではなく、むしろ足下を見つめると世界にも稀な表現が九谷焼にはあることに気が付き、肩の力が抜けると同時に生まれ育った土地を心から好きになりました。これまで職人・作家・窯主として積み重ねてきた事やこれから目指すことについての評価、そして地道な取り組みも見つけてくださる三井ゴールデン匠賞の受賞は大きな喜びであり、誇りに思えます。今回の受賞が産地の様々な課題の解決に向かう一助となれば幸いです。私に関わる全ての人と一緒に受賞したと思っています。本当にありがとうございました。

※〈モストポピュラー賞〉も同時受賞

## 〈審査員特別賞〉

### ■ 築城 則子 (福岡県/小倉織)



このたびは、大変光栄な賞をいただき、ありがとうございました。  
小倉織は一度生産が途絶えた織物だからこそ、関係者一同、伝統をつなげていく必要性を強く感じながら仕事をしています。三井ゴールデン匠賞は、作り手にはもちろん、それに携わる事業者にもスポットライトをあてていただけるもので、今回の受賞は大きな励みとなりました。私自身は手織りの染織家と、機械織のためのテキスタイルデザイナーの二つの顔を持っており、「小倉 縞縞」では、機械に「手」の技を同化させ、機械織だからこそできる表現を追求しています。これからも小倉織の更なる可能性を広げ、進化を目指しながら、現代の人々に求められるものづくりとは何かを常に考え、未来につながる伝統工芸の発展に貢献できるよう、真摯に取り組んでいく所存です。

### ■ 林 美光 (秋田県/金銀銅漆目金)



この度は思いもよらない素晴らしい賞を賜り、誠に有難う御座います。  
秋田県は古くから鉱山が栄え、金銀銅等、貴重な金属を多く産出し、2次産業として金属工芸の文化が発達しました。優秀な金工師を多く輩出し、刀装具をはじめ各種金銀細工の装飾品等、高度な技術が確立され発展を遂げましたが、中でも最も困難な技法とされるのが金銀銅漆目金でした。  
この仕事を現代に蘇らせ、時代に合わせた作品に進化させることを目標に長年研究を重ねてまいりました。現在はその存在を広く世に知らしめると共に、後世にこの技術と文化を伝えるべく日々取り組んでいるところです。その意味においても今回の受賞は新しい作品作りの励みともなり、活動に取り組む力となり得るものでした。関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。本当に有難うございました。

## 〈奨励賞〉

### ■ クリエイティブ・シェルパ ※ 団体として受賞 [代表:羽塚 順子・藤田 昂平] (東京都/江戸仕立て都うちわ千鳥型)



この度は、素晴らしい賞をいただきまして誠にありがとうございます。  
こだわりが強く反復作業を繰り返す集中力を持つ自閉症の方は、生まれながらに職人の気質を兼ね備えていると言えます。一般就労が困難で社会との接点が少ない彼らの才能が、後継者不足の職人技継承として活かされるようになれば、どんなに素晴らしいだろうと、千鳥うちわをモデルケースにすることを試行錯誤してきました。  
この取り組みを、名だたる伝統工芸職人の方々と共に受賞させていただけたことは、障がい児の親御さんや福祉関係者にとって夢のような出来事で、大きな希望につながります。個人的には歴史的なことだとすら感じています。まだ広く理解いただくには時間がかかるかもしれませんが、少しずつでも異才への継承事例が全国でも実現していくことを願いつつ、千鳥うちわの作品が世界に羽ばたけるように継続していきたいと思っております。

### ■ 松本 光太 (香川県/香川漆器)



奨励賞という素晴らしい賞を頂けたこと、ありがたく思っております。  
これまで自分が進んできた道を見直す良い機会を頂き、これからの未来につながるビジョンに繋げることができたように思います。  
大変有意義な時間を過ごさせて頂けたことに、心より感謝いたします。  
それと共に、まだまだ頑張れと、背中を押されたような気もいたします。  
その期待は大変嬉しく、これからの製作における活力になりました。  
いま、私たちが進んでいる道は、時間が経てば伝統と呼ばれるかもしれませんが。  
後世に恥ずかしくない道を切り開き、  
新たな伝統の模索を後押ししていただける三井ゴールデン匠賞には、感謝しかございません。  
これからも、新しい発想そして具現化を通して、皆様に楽しんでいただけるような作品作りに精進いたします。

## 【第4回「三井ゴールデン匠賞」 審査員による全体講評】

今回からグランプリに代わり5組の〈三井ゴールデン匠賞〉を最高賞とし、さらに〈審査員特別賞〉〈奨励賞〉が新設されたことにより、審査もより白熱した第4回「三井ゴールデン匠賞」。

伝統的な工芸品とその取り組みだけでなく、持続可能な消費と生産を意識したユニークな素材開発、WEBを多様に取り入れた展開例、福祉作業所と職人技を結びつけた「伝福連携」の好例など、これまでには少なかった取り組みからのエントリーも目を引いた。

さまざまな経歴を持つ5名の審査員が独自の視点から審査、議論することで、質の良さは保ちつつ工芸の可能性や幅を広げる多様性のある賞となった。

## 【第4回「三井ゴールデン匠賞」 選出ポイント】

### 〈三井ゴールデン匠賞〉

■ うじょうつむぎほぞんかい 烏城紬保存会 ※団体として受賞 うじょうつむぎ (岡山県/烏城紬) すもと まさこ 代表:須本 雅子

応募タイトル: 「岡山県指定郷土伝統的工芸品である烏城紬の伝統と技術の伝承を目指す」

#### \*選出ポイント

須本氏が中心となって始まった烏城紬の技術保存、継承への活動が今では大きく広がり、講座卒業生の中には県展で入選する者も。積極的に保存会会員が須本氏とともにイベントに参加し、商品についての評価や好まれる柄などの研究、マーケティングを重ねてきた。その継続した努力が評価され、第3回(ファイナリスト)に続いて、今回はゴールデン匠賞受賞となった。「工芸界でより女性が活躍する場を固める、大きな役割を果たしている」(審査員・福島 武山氏)。また、「紬のやわらかい風合い、極めて繊細な縞のニュアンスが素晴らしい」(審査員長・外館 和子氏)と織物としての評価も高かった。



■ ささき まさひろ 佐々木 正博 (香川県/漆芸) しっげい

応募タイトル: 「きんま蒔醬の持つ繊細な美しさをグラデーションで表現する独自性」

#### \*選出ポイント

讃岐漆芸の伝統を受け継ぎながら、現代的な漆作品を模索している佐々木 正博氏。従来単色の地色が用いられてきた蒔醬の技法にはなかった微妙なグラデーションと、繊細な文様を駆使した華やかな表現が「圧倒的な技術力と創造性を持つ」と審査員全員から高く評価された。蒔醬をさらに広めるため、グループ展、個展の積極的な開催、小学生を対象にしたワークショップを20年以上継続している。



■ 株式会社 <sup>まつぎきにんぎょう</sup>松崎人形 ※ 団体として受賞 (東京都/<sup>えどきめこみにんぎょう</sup>江戸木目込人形) 代表:<sup>まつぎき みつまさ</sup>松崎 光正

応募タイトル: 「動物、昆虫、植物をモチーフに木目込技法で新しいオブジェを創出」

\*選出ポイント

木目込みという技術は同じながら 従来の節句人形とはまったく方向性の違う、動物や昆虫、植物をモチーフとしたオブジェに、「高い木目込みの技術力と斬新さを感じる。人形文化をしっかりと育てている」(審査員・福島 武山氏)と高評価。若い職人の育成にも力を尽くし、フランスなど海外にも積極的にアピール。アートとしても十分に受け入れられるクオリティで、人形工芸の新しい方向性を示した。



■ <sup>まつやま よしなり</sup>松山 好成 (三重県/<sup>いが</sup>伊賀くみひも)

応募タイトル: 「廃れかけている唐組台による組紐制作技術の継承」

\*選出ポイント

長さ155cm、幅1.9cmの帯締めを作るには、毎日組み続けても4ヶ月以上かかるという唐組台による組紐。幅を揃え表面を平らに編み上げるにはたいへんな熟練の技を要する。「たとえ何に使うかわからない外国人が見ても、この作者ならではの帯締めの意匠の新鮮さ、技術の高さはわかるはず。また、唐組台自体も自身で作ることで、幅広い表現を追求、工夫する姿勢が素晴らしい」(審査員長・外館 和子氏)と好評を得た。



■ <sup>みやもと まさお</sup>宮本 雅夫 (石川県/<sup>くたにやき</sup>九谷焼)

※〈モストポピュラー賞〉も同時受賞

応募タイトル: 「九谷焼の本流、伝統と伝承の融合を未来へ」

\*選出ポイント

「職人、作家としての技術の高さだけでなく、経営者、産地のリーダーとして積極的に行動して産地をけん引していることは素晴らしい」(審査員・河井 隆徳氏、福島 武山氏)。レベルの高い作品が多い九谷焼のなかでも、独自開発した絵の具の存在感、表現力が注目された。これは剥離しにくく透明度が高いことが特徴で、鮮やかさと温かみ、立体感ある独特の表情に焼き上がる。この絵の具を用いた緻密な絵付けと産地全体への貢献が高く評価された。



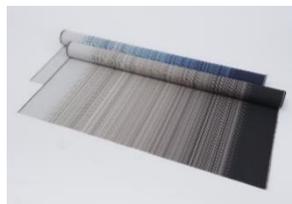
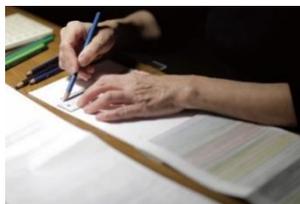
〈審査員特別賞〉

■ 築城 則子 (福岡県/小倉織)

応募タイトル：「伝統工芸の小倉織を現代のテキスタイル《小倉 縞縞》として創出」

\*選出ポイント

最盛期には生産工場が100社あったとされるが、昭和初期には低迷していた小倉織。手織りや、外部の工場に委託していたが、自社工場の必要性を感じ、2008年に小倉織物製造株式会社を設立。小規模工場の利点を活かし、小ロットからの注文にもすばやく対応できることを強みに受注を広げている。築城 則子氏がアートディレクター、デザイナーを務めるブランド《小倉 縞縞》は、ファッション、インテリア、サッカークラブのユニフォームなど縞の可能性を感じさせるさまざまなプロダクトへと展開。「繊細な縞を、多くの人が手に取れるよう柔軟に展開している」(審査員長・外館 和子氏)。産地活性化への貢献、若手育成が評価された。



■ 林 美光 (秋田県/金銀銅杢目金)

応募タイトル：「金銀銅杢目金の再現と発展・継承」

\*選出ポイント

杢目文様に加え、新たに板目文様を出すことにも成功。デザインに多様性を持たせ、現代的な茶道具、花器、飾り箱などを制作。「杢目を出すのは難しいなかで、このように自由にデザインできる技術力を推したい」(審査員・清水 眞澄氏)「失われた技法を解明した、ゆるがない信念」(審査員・千 宗屋氏)など審査員より高い評価を得た。



〈奨励賞〉

■ クリエイティブ・シェルパ ※ 団体として受賞 [代表:羽塚 順子・藤田 昂平] (東京都/江戸仕立て都うちわ千鳥型)

応募タイトル：「後継者不足の職人技を障がいのある異才の若者が継承」

\*選出ポイント

50以上の工程があるという千鳥うちわの制作。資材を和紙、竹骨、持ち手の3つに分け、各パーツを今後の継続制作が可能な施設で練習にとりかかった。障がいを持つ方のそれぞれの個性に合わせた工程を割り振ることで、その能力を存分に引き出し、結果としてクオリティの高いプロダクトとして仕上げた。

「取り組み自体も素晴らしいが、たとえものづくりの背景を知らなくても、欲しくなる完成度」(審査員・千 宗屋氏)



■ 松本 光太 (香川県/香川漆器)

応募タイトル：「香川県の可能性と魅力を最大限に集約。石粉塗による新しい香川漆器を開発」

\*選出ポイント

本来なら産業廃棄物となる「庵治石の削り石粉」に漆を混ぜ込み「石粉塗」を開発した視点のおもしろさ、ユニークさが高く評価された。「花崗岩のダイヤモンド」と呼ばれるほど硬く、丈夫である庵治石。「Ishiko」シリーズは強度の高い石粉塗で器を塗ることで、金属カトラリーを使っても傷が付きにくく指紋が気にならず、シンプルなデザインにより、和洋の垣根を超える漆器となった。食育の一環としてこうした漆器を小学校に 無償提供し、次世代の使い手を育てる活動も始める。アート活動としては漆器に施した「蒔繪」の模様が US 花王ボトルに採用され、全米で発売されている。商品開発、国内外への啓発など複合的な活動が大きく評価された。



## 第4回「三井ゴールデン匠賞」概要

「三井ゴールデン匠賞」は、日本の伝統工芸の持続・発展に真摯に取り組む個人・団体を表彰するものです。

伝統工芸界には、日本の伝統を継承しながら未来につながるものづくりに真摯に取り組み、さらに発展させている伝統工芸の担い手がいらっやいます。三井広報委員会は、本賞を通じ、こうした取り組みの担い手に称賛が集まる機会を作り、日本の伝統を次世代につなぐ取り組みを応援しています。このため、本賞は伝統工芸品の職人はもとより、器具・素材の開発や、経営・流通に関わる方など、伝統工芸界を支える幅広い個人や団体を応募対象としています。

日本の伝統文化の継承・発展、また国内外への情報発信の重要性が高まる昨今、第4回「三井ゴールデン匠賞」におきましても、伝統工芸の素晴らしさを広く伝える機会の創出に寄与してまいります。

※ 2015年に「三井ゴールデン匠賞」創設。これまでに3回(2015年度/2017年度/2019年度の隔年実施)にわたり、優れた活動を行う伝統工芸の担い手にスポットライトを当て、その功績を称える活動を行ってきました。

「三井ゴールデン匠賞」公式サイト：<https://mgt.mitsuipr.com/>

【主 催】 三井広報委員会

【後 援】 経済産業省  
一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会

【賞の種類/賞金】 〈三井ゴールデン匠賞〉 ※最高賞  
5名または5団体以内。  
審査員による審査で選出。  
トロフィーおよび、賞金50万円を贈与。

〈Mostポピュラー賞〉  
1名または1団体。  
インターネットによる一般投票により、  
〈三井ゴールデン匠賞〉受賞者の中から選出。  
トロフィーおよび、賞金10万円を贈与。

〈審査員特別賞〉  
若干名(該当者無しの場合もあり)。  
審査員による審査で選出。  
トロフィーおよび、賞金20万円を贈与。

〈奨励賞〉  
若干名(該当者無しの場合もあり)。  
審査員による審査で選出。  
トロフィーおよび、賞金10万円を贈与。



【贈 賞 式】 2022年3月18日(金) 「三井ゴールデン匠賞」贈賞式、及び、Mostポピュラー賞発表

【審査ポイント】 「技術・技能」、「創造性」、「持続性」。その視点から未来につながる取り組みを評価します。

【審査員】 ・ 外館 和子 (工芸評論家 多摩美術大学教授) \*審査員長  
・ 清水 眞澄 (三井記念美術館館長 成城大学名誉教授)  
・ 河井 隆徳 (一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会 産地支援部 部長)  
・ 千 宗屋 (武者小路千家家元後嗣)  
・ 福島 武山 (日本工芸会 正会員 伝統工芸士 九谷焼赤絵細描作家)

※ 参考資料



第3回「三井ゴールデン匠賞」紹介サイト [https://mgt.mitsuipr.com/about/winner\\_03.html](https://mgt.mitsuipr.com/about/winner_03.html)

【三井広報委員会について】

三井グループ企業24社で構成される三井広報委員会は、“人を大切にし、多様な個性と価値を尊重することで社会を豊かにする”という理念のもと、様々な文化活動および広報活動を行う組織です。活動を通じ、国際交流や地域社会の活性化に貢献するとともに、社会の繁栄と福祉に寄与し、三井グループのより一層のイメージ向上を目指しています。



〈会員会社一覧〉

三機工業 新日本空調 三井住友建設 サッポロビール 東レ 王子ホールディングス デンカ 三井化学  
日本製鋼所 三井金属 東洋エンジニアリング 三井 E&S ホールディングス 商船三井 三井物産  
三越伊勢丹ホールディングス 三井住友海上 三井住友銀行 三井住友ファイナンス&リース JA 三井リース  
大樹生命 三井住友トラスト・ホールディングス 三井不動産 三井倉庫ホールディングス エームサービス

〈主な活動〉

- ・「三井ゴールデン匠賞」の提供
- ・「三井ゴールデン・クラブ賞」の提供
- ・「三井ゴールデン・クラブ野球教室」の開催

「人を大切にし、多様な個性と価値を尊重することで社会を豊かにする」ことを目的とした社会貢献活動



三井ゴールデン・クラブ賞

一般的に注目が集まりやすい攻撃陣や投手陣だけでなく、野球の土台ともいえる守備の大切さを知ってほしい、守備陣にも光を当てたい、という思い



三井ゴールデン匠賞

日本の伝統を継承しながら未来につながるものづくりに真摯に取り組み、さらに発展させている伝統工芸の担い手の活動を応援したいという思い



三井広報委員会公式サイト <https://www.mitsuipr.com/>

〈報道関係者からのお問い合わせ先〉

「三井ゴールデン匠賞」広報事務局 株式会社エクス  
E-mail : ex-pr@ex-inc.net FAX : 03-6435-1043